

「かたちづくり」「かけ算の筆算を考えよう」

単元名	第1学年 かたちづくり	第3学年 かけ算の筆算をかんがえよう
本質的な問い	形のおもしろさとは何だろう。	筆算をすることのよさとは何だろう。
単元を貫く問い	形を分けたり、組み合わせたりする ことで新しい形はできるのだろうか。	かける数が2桁になっても筆算は活用で できるのか。

育成したい資質・能力
自立・協働・創造

令和7年1月31日(金)第5校時 13:30～14:15

自閉症・情緒障害特別支援学級1（あじさい学級）（第1学年 6名 第3学年 2名）

第1学年 A・B・C・D・E・F児

1 小学校学習指導要領算数編による本単元の内容

- B (1) ア(ア)ものの形を認め、形の特徴を知ること。
 (イ)具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。
 イ(ア)ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成について考えたりすること。

2 単元について

【単元観】

本単元では、直角二等辺三角形の色板を使っていろいろな形を構成したり、棒を並べたり格子点をつないだりして色々な形を作るといった具体的な操作を通して、平面図形について、形を認め、形の特徴を知り、形の構成について考えることをねらいとしている。

第1学年第12単元「かたちあそび」では、身の回りの具体物の概形を基本的な立体図形ととらえ、その観察や、それを用いた形作り、仲間分けなどの活動を通して、立体図形の特徴を指導している。さらに、立体図形を構成する面を写し取る活動などで、平面図形の特徴にも気付かせるよう指導している。

本単元では、色板や数え棒などの具体物を使って色々な形を自分で作ったり、分解したりする活動を通して、図形についての理解の基礎となる経験をより豊かにしていく。図形の移動には、ずらす（平行移動）、回す（回転移動）、裏返す（対称移動）があるが、本単元では、どの移動を行ったかということよりも、形の変化の面白さや動かすと新たな形が生み出されることを知る経験を大切にしたい。

本単元で育成される資質・能力は、第2学年で、正方形、長方形、直角三角形などの基本的な平面図形や、箱づくりなどの立体図形の学習に生かされていく。

【児童観】

	A児	B児	C児
学習全般	文字を書くことや消すことなど、一つ一つのことに時間がかかる。 学習には意欲的に取り組むことができるが、自分の考えに固執しがちである。	持ち合わせている語彙が少なく、指示の理解ができないことが多くある。 学習には意欲的に取り組むことができるが、言葉の意味を捉えることができず、文章問題などは苦手である。	注意力が散漫で、集中して課題に取り組むことが難しい。 自分の興味があることには取り組むが、興味が無いことには取り組もうとしない。
領域	図形には興味があり、身の回りの具体物の概形を捉えることができる。具体物の操作も好きで意欲的に取り組むことができる。	具体物操作が好きで、意欲的に取り組むことができるが、語彙の少なさから、特徴などを言葉で説明することは難しい。	計算より図形に興味をもっている。具体物操作も好きだが、その具体物で遊び始めてしまうことがある。語彙は豊富なため、特徴などを捉えることは得意である。

	D児	E児	F児
学習全般	手先の不器用さがあり、文字や数字の字形を整えることが難しく、自分の書いた数字が読めず間違いに繋がることもある。 学習に対しては、意欲的に取り組むことができる。	物事に対して丁寧に取り組むことが苦手で、間違えることが多くある。算数では、計算の仕方は理解しているが、計算間違いが多い。	何事にも意欲的に取り組むことができる。だが、自分の意見に自信がもてないことがある。
領域	図形の特徴などを捉えることはできるが、説明することは難しい。立体図形の一面だけを捉えてしまい、他の平面図形を見つけることにも困難さがある。	立体図形の一面だけを捉えてしまい、他の平面図形を見つけることに困難さがある。	図形の特徴を捉え、組み合わせたり写し取ったりし、様々な形を構成することができる。

【指導観】

本単元では、本質的な問いを「形のおもしろさとは何だろう。」と設定する。単元を貫く問いを「形を分けたり組み合わせたりすることで新しい形はできるのだろうか。」とし、児童が色板や数え棒を操作して形を作ることができるように、個別の操作時間を十分に確保する。また、操作活動をした後には、気づいたことや分かったことなどを学級全体で交流し、単元を貫く問いに学級全体で気付けるようにする。授業内では、子どものタイミングを逃すことなく振り返りを行い、自分とは違う構成をしている児童に気付いたり、新たな構成要素に気付いたりなど、形のおもしろさに触れ合うことができるようにする。

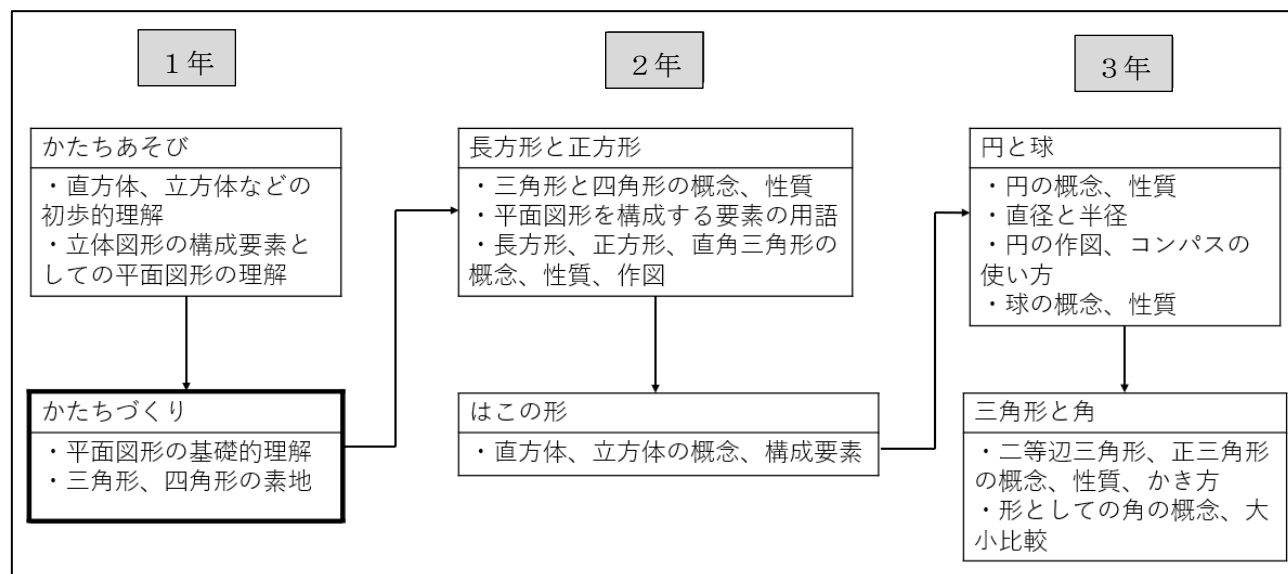
「困り感」を抱かせ、自立的に問題解決する授業づくりについて

本単元では、指定された枚数で形を作る活動を多く取り入れることで児童に困り感を抱かせる。初めは枚数を指定せず自由に形を作り図形に対して親しみをもつことを大切にしたい。だが、枚数や形を指定することで、指定された枚数で指定された形を作るにはどのような構成にすればよいのか、何の形を組み合わせればできるのか考え、図形についての理解の基礎となる経験をより豊かにすることができるようにする。

個別最適な学びに向けた、デジタルコンテンツ等の活用について

デジタルコンテンツについては、全体場で活用していく。授業の導入では、第1時で児童が構成した図形を提示し興味をもたせたり、図形のシルエットを一瞬だけ提示し取り組んでみたいという意欲をもたせたりする。また、色板をずらしたり回したりする活動の際に、辺と辺をぴったり合わせることに難しい児童にはデジタルコンテンツを活用し、より形への理解を深めることができるようにする。

3 内容の関連



東京書籍『新しい算数 教師用指導書 研究編』令和6年度版 を参考に作成

4 単元の目標と評価規準

【目 標】						
身の回りにあるものの形について、基本的な平面図形の特徴をとらえ、平面図形についての理解の基礎となる感覚を豊かにしながら、平面図形の形に着目して特徴をとらえたり、構成や分解を考えたりする力を養うとともに、それらを日常生活に活用しようとする態度を養う。						
【評 価 規 準】						
	A児	B児	D児	E児	F児	C児
知識・技能	身の回りにあるものの形について、その概形や特徴をとらえ、直線で構成されたものも面で表せたものと同じように見られること理解し、色板や棒を並べていろいろなものの形を構成したり分解したりすることができる。					
思考・判断・表現	身の回りにあるものの形に着目し、図形の特徴をとらえたり、いろいろな形を構成、分解したりして、表現している。				身の回りにあるものの形に着目し、図形の特徴をとらえたり、いろいろな形を構成、分解したりして、形の構成について考えている。	
主体的に学習に取り組む態度	身の回りにあるものの形について、形の特徴をとらえたり、構成、分解したりした過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。					

5 単元の指導と評価の計画（全5時間）

学習内容		予想される児童の反応	評価規準（評価方法） ・指導に生かす評価、○記録に残す評価		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
色板の操作を用いた図形の構成理解（3）	1 身の回りにあるものの形の特徴をとらえ、色板を並べていろいろな図形を作る活動を通して、図形の構成を説明する。	・魚や家、ロケットなど色々な形が作れる。 ・色板2枚で三角や四角が作れる。 ・友だちと同じ形を作っても自分と作り方が違うときもある。 ・形は同じでも色板の枚数がちがうことがある。	・知（発表、行動観察）		・態（行動観察、ノート分析）
	2 身の回りにあるものの形の特徴をとらえ、色板を並べていろいろな図形を作る活動を通して、図形の構成を説明する。	・同じ形でも作り方は沢山あるな。 ・4枚の色板だけで色々な形ができる。 ・どの形も広さは同じに見えるな。 ・使っている色板の数は同じだから、どの形も広さは同じ。 ・色板をずらしたり、回したり、裏返したりすると、色々な形に変えることができる。		○思（発表、行動観察）	・態（行動観察、ノート分析）
	3 決められた枚数の色板を並べて、色々な図形を作る活動を通して、図形の特徴についての理解を深める。（本時）	・形が同じでも色々な並べ方がある。 ・並べ方は1つではない。 ・色板の枚数が少なくても、形は作ることができる。 ・三角の色板だけでは、できない形もある。 ・三角でできない形は、どんな形からできているのかな。	○知（発表、行動観察）		
数え棒を用いた図	4 数え棒を並べて色々な図形を作る活動を通して、形を線でとら	・棒だけで魚やロケットが作れた。 ・大きい三角と小さい三角をくっ付けたら魚ができた。 ・数え棒は何本使ったんだろう。	・知（発表、行動観察）		・態（行動観察、ノート分析）

	えることができる。	・色板でも数え棒でも、三角や四角ができた。 ・色板で作った形は、中が詰まっているけど、数え棒は外の形だけだな。			
格子点を用いた図形の構成理解(1)	5 格子点を直線で結んで、いろいろな形を作る活動を通して、形を線でとらえることができる。	・点を線でつなぐと色々な形が見えてくるな。 ・自分のかいた形の中に、三角や四角が隠れているな。 ・色板も、数え棒も点と線も同じような形が作れるし、三角や四角でできている形が多いことに気づいた。		○思 (行動観察、ワークシート)	○態 (行動観察、ノート分析)

第3学年 G児・H児

1 小学校学習指導要領算数編による本単元の内容

A (3)ア(7) 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算をもとにしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。 (イ)乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。 (ウ)乗法に関して成り立つ性質について理解すること。 イ(7)数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見出したりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

2 単元について

【単元観】 本単元では、乗数が何十の乗法や、2位数や3位数×2位数の計算の仕方を既習事項を生かして考えながら、乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることやその筆算の仕方を理解すること、そして、確実に乗法の計算ができ、必要な場面でそれを適切に用いることができるようにすることをねらいとしている。 これまでに、第2学年で乗法九九、本学年の第10単元では乗法の交換法則や、分配法則、2位数や3位数×1位数の筆算の仕方を指導してきている。 本単元では、それを用いて、何十をかける計算の仕方を考え、理解した上で、乗数が2位数の計算の仕方を考えていく。何十をかける計算は、結合法則に基づき、既習の1位数をかける計算を10倍すればよいと考えることができる。2位数をかける計算の仕方は、何十をかける計算と1位数をかける計算を組み合わせたものであり、分配法則に基づき考える。この考え方が筆算での計算の仕方に必要である。 本単元で育成される資質・能力は、第4学年や第5学年の小数のかけ算に生かされていくものである。

【児童観】

	G児	H児
学習全般	学習に意欲的に取り組むが、周りのことが気になり集中が保てない。集中が切れると、離席したりH児に干渉したりする。	記憶を保持することが苦手で、学習したことも定着しにくい。そのため、既習が身に付かず学習に困難さがある。困っていても助けを求めることができず、落書きや遊びに繋がってしまう。
領域	計算の仕方を考えること得意だが、自分の考えを言葉にして説明することは苦手である。図をかいて説明しようとするが、図の意味が途中でわからなくなってしまうことも多くある。	算数科の学習に苦手意識があり、課題に取り組むことが難しい。漢字があると問題を読むことができず、問題の意味が理解できない。難しさを感じると自分の世界に入ったり癇癪を起こしたりすることが多い。

【指導観】

本単元では、本質的な問いを「筆算をすることのよさとは何だろう。」と設定する。単元を貫く問いを「かける数が2桁になっても筆算は活用できるのか。」とし、既習と何が違うのか、また、既習事項はどこに活かされているのか、既習は使えるのか児童と確認しながら本単元を進めていく。

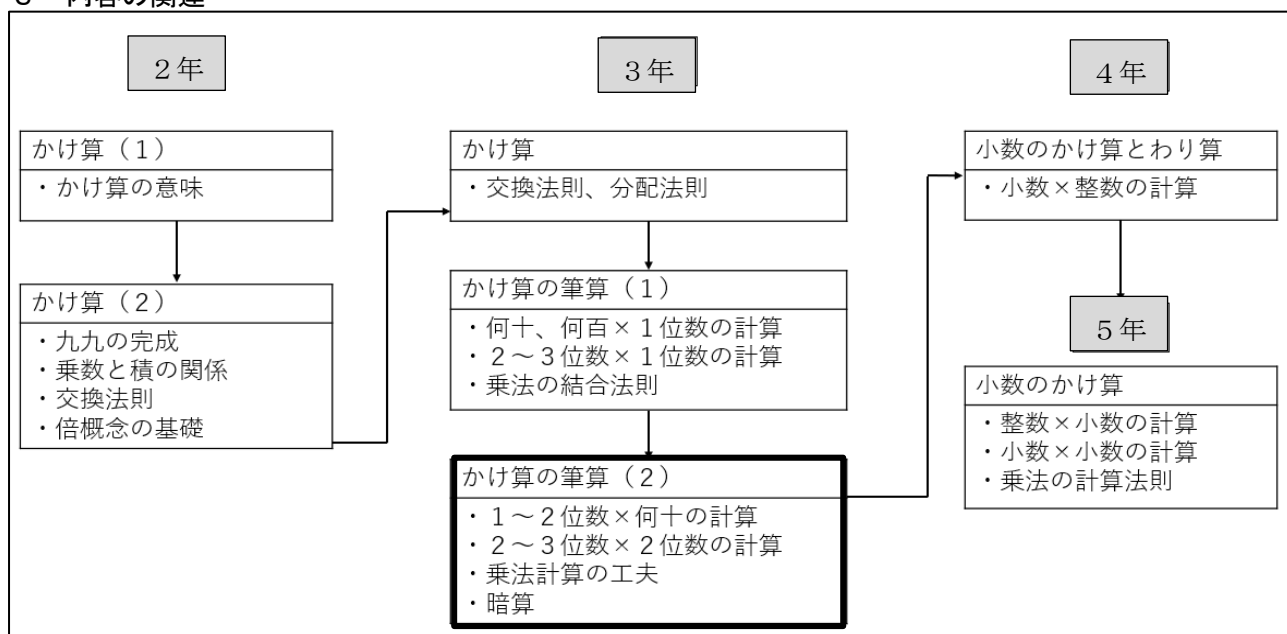
「困り感」を抱かせ、自立的に問題解決する授業づくりについて

本単元では、図と式が正しく結びつけることや筆算が正しくできる力を身につけさせる。そのために、教師が間違った図や間違った筆算の仕方などを提示することで、児童が自分の言葉でどこが間違っているのか説明させ正しく計算ができるようにする。また、授業の導入では、既習から何が活用できそうか児童と確認し、本当に活用できるのか授業内で確認することで、自力での問題解決に繋げていけるようにする。

個別最適な学びに向けた、デジタルコンテンツ等の活用について

デジタルコンテンツについては、筆算の仕方などの動画を何度も見返すことができるよさを生かし、練習問題を解く活動の際に活用させる。自分のペースで問題に取り組むことができるため、意欲的に問題に取り組むことができると考える。

3 内容の関連



東京書籍『新しい算数 教師用指導書 研究編』令和6年度版 を参考に作成

4 単元の目標と評価規準

【目 標】		
2～3位数に2位数をかける乗法の計算について理解し、その計算が確実にできるようにし、乗法について成り立つきまりについて理解することができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して、計算した過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。		
【評 価 規 準】		
	G児	H児
知識・技能	2～3位数×1位数の乗法の筆算の仕方を活用して、2～3位数×2位数の乗法を筆算で計算することができる。	
思考・判断・表現	数の構成や乗法について成り立つきまり、既習の2～3位数×1位数の筆算の仕方に着目し、2～3位数×2位数の筆算の仕方について考え、説明している。	数の構成や乗法について成り立つきまり、既習の2～3位数×1位数の筆算の仕方に着目し、2～3位数×2位数の筆算の仕方について考えている。
主体的に学習に取り組む態度	2～3位数×2位数の筆算について、既習の筆算の仕方を基に考えたことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。	

5 単元の指導と評価の計画（全 10 時間）

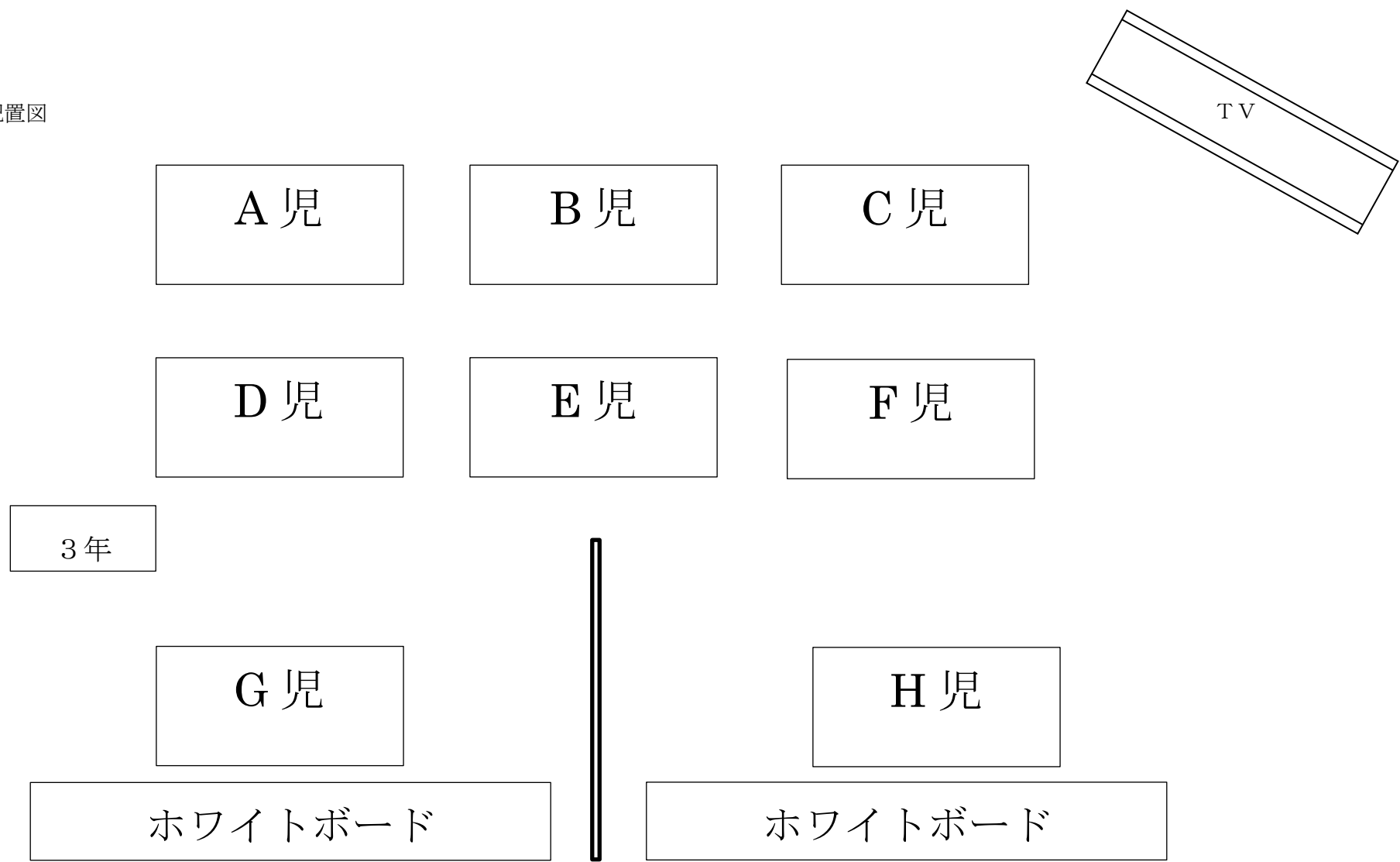
学習内容		予想される児童の反応	評価規準（評価方法） ・指導に生かす評価、○記録に残す評価		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
何十をかける計算（2）	1 1～2 位数×何十の計算の仕方について、図や乗法の結合法則を基に考え、説明する。	・かける数が2桁になっている。 ・かける数が1桁だったらできるけど縦一列分の数を求めてから、10列分の数を求めよう。 ・横一列分の数を求めてから、3列分の数を求めよう。		・思（発表、ノート分析）	・態（行動観察）
	2 乗数や積を比較し、乗数を10倍にすると積も10倍になることを理解し、その計算ができる。	・かけられる数がどちらも12だ。 ・かける数は、3と30で違う。 ・かけられる数が10倍になっているときは、答えも10倍になっていたよね。 ・かける数が10倍になったら答えも10以内になる。	・知（行動観察・ノート分析）	○思（発表、ノート分析）	
2けたの数をかける計算（6）	3 2 位数×2 位数の計算の仕方を理解する。 （本時）	・3枚の時は$12 \times 3 = 36$、20枚の時は12×20で240になるから、その考えが使えないかな。 ・図から12×23の答えは、12×20と12×3の答えを足せばいいね。		○思（発表、ノート分析）	
	4 2 位数×2 位数（部分積がみな2桁で繰り上がりなし・あり）の筆算をする。	・前に学習した12×3と12×2を組み合わせる筆算をする。 ・24は、$12 \times 20 = 240$のことなんだ。 ・かける数が2桁になっても一の位から順番に計算するんだ。	・知（発表、行動観察）	・思（発表、ノート分析）	
	5 2 位数×2 位数（部分積が2、3桁で繰り上がりあり・なし）の筆算をする。	・前時と同じ計算の仕方では解けるかな。 ・58×4は58×40のことなんだね。 ・0を忘れないようにしないとイケないね。 ・途中の計算の答えが3桁になっても、計算の仕方は同じだね。	・知（行動観察・ノート分析）		
	6 2 位数×2 位数の簡便な計算の仕方や1 位数×2 位数の計算の仕方を、乗法のきまりや性質を基に考え、説明する。	・こうたさんは、0のかけ算を途中の答えに書いてないね。 ・0は何をかけても0だから、一の位0を書いていいね。 ・あみさんは、かけ算のきまりを使って、計算しやすくしているね。 ・0をかける計算をくふうしたり、かけ算のきまりを使うと計算が簡単になったりする時があるね。		・思（発表、ノート分析）	
	7 3 位数×2 位数の筆算をする。	・かけられる数が3桁になっている。 ・2桁の時と同じでいいのかな。 ・587×3の答えを10倍にすれば求められるから、587×3と587×4をすればいいね。 ・かけられる数が大きくなっても計算の仕方は同じだね。	・知（行動観察・ノート分析）	○思（発表、ノート分析）	○態（行動観察）

	8 3 位数 $\times$ 2 位数の筆算をする。	・ 2 段目は今までと一緒で左に 1 桁ずらして計算しないといけないね。 ・ 真ん中が 0 の時も他の数と同じの考えればいいね。 ・ 0 があっても筆算の仕方は変わらないね。	○知 (行動観察・ノート分析)		
暗算 (1)	9 簡単な場合の 2 位数 $\times$ 1 位数の暗算をする。	・ さくらんぼ計算みたいに十の位と一の位を分けて考えるとできるね。 ・ 230×3 は 23×3 のかけられる数が 10 倍になった物だから、答えも 10 倍するとわかるね。 ・ 数をよく見たり、計算のきまりを使ったりいろいろな工夫ができるね。		・ 思 (発表、ノート分析)	・ 態 (行動観察)
(1) まとめ	10 学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返る。	・ 今まで勉強したことを使えば解けるね。 ・ 1 つの式で解けるかな。 ・ 答えの見当をつけると間違いが防げるね。	○知 (評価問題、ノート分析)	○思 (評価問題、ノート分析)	○態 (行動観察、ノート分析)

5 本時の学習	第1学年（A・B・C・D・E・F児）	第3学年（G・H児）
（1）本時の目標	A・D・E・F児：決められた枚数の色板を並べて、いろいろな形を構成し図形の特徴についての理解を深めることができる。 B・C児：決められた枚数の色板を並べて、いろいろな形を構成することができる。	G児：12×23 の計算の仕方を図や式を用いて考え、説明することができる。 H児：12×23 の計算の仕方を図や式を用いて考えることができる。
（2）本時の展開	第1学年（A・B・C・D・E・F児）	第3学年（G・H児）

学習過程	学習活動	指導上の留意事項（◇） 「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て（◆） 自立・個別最適な学びに向けての手立て（○）	評価規準 (評価方法)	学習過程	学習活動	指導上の留意事項（◇） 「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て（◆） 自立・個別最適な学びに向けての手立て（○）	評価規準（○） (評価方法)
つかむ さぐる	1 前時までの復習	◇図形の構成要素の「三角」や「四角」という言葉が出るように前時でどのように図形を作ったか問う。 ○児童が一時で作った形を一瞬提示し、児童が興味をもって本時に取り組めるようにする。 ◆学習課題に素早く取り組めるようワークシートにめあてを書くようにする。	○決められた枚数の色板を並べて、いろいろな形を構成し図形の特徴についての理解を深めている。 (A・D・E・F児) (発表・行動観察)	つかむ さぐる	1 前時までの復習	◆前時までの既習事項を近くに掲示しておく。 ○問題数が少なくふりがなを振ったワークシート（H児）と問題数が多く、文字数が少ないワークシート（G児）を準備する。 ○答えも置いて自分で丸つけをして進めることができるようにする。	○12×23の計算の仕方を図や式を用いて考え説明している。(G児) (行動観察・ノート分析)
	2 学習課題	㊟いろいろたでかたちをつくろう。			2 学習課題	㊟12×23 の計算の仕方を考えよう。	
	3 自力解決	◇枚数の条件だけ提示することで、様々な予想をしながら構成をすることができるようにする ◇色板では作成できない形を混ぜておき、児童に困り感を抱かせる。 ◆シルエットで表したヒントカードを児童の見える位置に配置しておく。 ◆補助線を書き込んでも良いワークシートを配置しておく。			3 自力解決	◇既習学習から、解決の見通しを確認させる。 ◆ノートに自分で考えを書くことが難しい場合は、図の描いたワークシートを提示し、数値を穴埋めにしていき、図から式を考えることができるようにする。(H児) ◆数字を分けて考えることができたら、図からも考えることができるか促す。(G児)	
深める	○二人組になり、同じ番号の課題に取り組む。 ・どんな形ができたか二人で見せ合う。 ①ふね 5まい ②さんかく 2まい ③ロケット 8まい ④ダイヤ 7まい ⑤チューリップ 10まい ⑥バラン 6まい ⑦ふね 2まい ⑧おうち 3まい ⑨しゅりけん 6まい ⑩クリスマスツリー 13まい ・同じ形なのに色板の並べ方が違う。	◇適宜、教師がどんな作り方をしたのか問い、自分達の活動を振り返るようにする。 ○答えを何種類か用意しておき、自分たちで答え合わせできるようにする。 ◇児童の気づきや振り返ったことを児童同士で話しながら交流させる。	○決められた色枚の色板を並べて、いろいろな形を構成することができる。 (B・C児) (発表・行動観察)	深める	4 練り合う	◇二つの考えを比べ、どちらもかける数を 20 と 3 に分けて考えていることに気付けるようにする。(G児)	○12×23の計算の仕方を図や式を用いて考えている。(H児) (行動観察・ノート分析)
	4 全体交流	○気づいたことをワークシートに記述する。 ・三角2枚で四角を作ってそれを並べてロケットを作った。 ・黒い影に線を引いたら分かりやすかった。 ・三角や四角を並べるといろいろな形ができることがわかった。			5 まとめ	◆分からなくなったら、教師に聞きやすい状況をつくり、手順を理解させて活動に取り組ませる。	
	5 まとめ	㊤いろいろたのならべかたによっていろんなかたちができる。			6 練習問題・振り返り	○筆算の練習問題も準備しておき、筆算に取り組む際はデジタルコンテンツを活用する。自分のペースで学習できるようにする。(G児) ◇練習問題において、自分の学びを振り返りながら問題を選択させる。 ◆練習問題を自分で選ぶことができない場合は、教師が提案する。	
まとめる 振り返る	6 練習問題・振り返り	◇本時の学習内容について理解しているかどうか確かめる。 ◇3つのコース別問題を準備し、児童に選択させ取り組ませる。			（G児）練習問題 ・2けた×2けたを解こう！コース ・答えが4けたになる計算コース！コース ・筆算で解いてみる？コース ・筆算で解いてみよう！コース	（H児）練習問題 ・数字を選んで図を完成させよう！コース ・図を完成させて答えを出そう！コース ・問題文から解こう！コース	

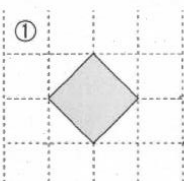
(3) 教室内配置図



かたちづくり いろいろたパズル(まわりのせんにそろえておいてみよう！)

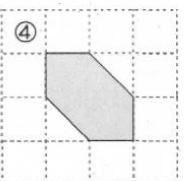
年 名まえ()

① ▲のいろいろた なんまいで できているかな？
▲のいろいろたを かたちにあわせて かんがえてみよう！



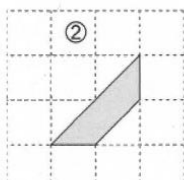
①

いろいろた ()まい



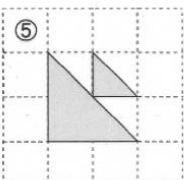
④

いろいろた ()まい



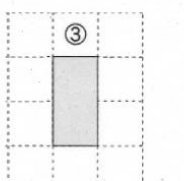
②

いろいろた ()まい



⑤

いろいろた ()まい



③

いろいろた ()まい

かたちづくり いろいろたパズル

年 名まえ()

① ▲のいろいろた なんまいで できているかな？
▲のいろいろたを かたちにあわせて かんがえてみよう！



①

いろいろた ()まい



④

いろいろた ()まい



②

いろいろた ()まい



⑤

いろいろた ()まい



③

いろいろた ()まい



⑥

いろいろた ()まい

なんのかたちかな??

かたちづくり いろいろなかたちをつかおう！いろいろたパズル

年 名まえ()

① どんなかたちで できているかな？
いろいろなかたちの いろいろたを くろいかげにあわせて かんがえてみよう！

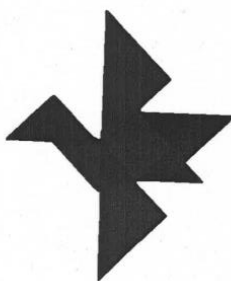


①

なんのかたちかな??



②



③



④

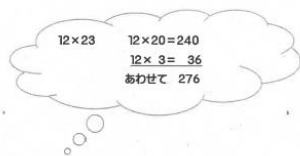
こた
答え

こた
答え

かけ算の筆算を考えよう 2けた×2けたを解こう！コース

年 名前 ()

① 計算しよう！



① $21 \times 13 =$

② $43 \times 12 =$

③ $32 \times 31 =$

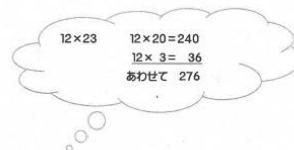
④ $44 \times 22 =$

⑤ $52 \times 24 =$

かけ算の筆算を考えよう 答えが4けたになる計算コース

年 名前 ()

① 計算しよう！



① $53 \times 32 =$

② $64 \times 43 =$

③ $77 \times 77 =$

④ $88 \times 88 =$

⑤ $99 \times 99 =$

かけ算の筆算を考えよう 筆算でといてみる？コース

年 名前 ()

○ 12×23 の筆算のしかたを見てみよう！

筆算のしかたを見てみよう！

QRコード

12 x 23
12 x 20 = 240
12 x 3 = 36
↓
12
x 23
36 ... 12 x 3
240 ... 12 x 20
276

12 x 23
x 23
36
240
276

12 x 3 = 36
12 x 2 = 24
たし算をする。
36 + 240 = 276

(1)

	1	2
x	2	3

○ 自分で解いてみよう！

(2)

	3	2
x	2	1

(3)

	4	1
x	2	3

かけ算の筆算を考えよう 筆算でといてみよう！コース

年 名前 ()

①

	2	2
x	2	2

②

	1	3
x	3	2

③

	4	3
x	2	1

④

	3	3
x	2	1

⑤

	2	4
x	1	2

⑥

	6	3
x	1	2

⑦

	3	4
x	2	1

⑧

	4	2
x	2	3

⑨

	7	2
x	1	2

⑩

	2	4
x	3	6

⑪

	2	7
x	2	4

⑫

	2	6
x	3	7